

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	カクホウギン ナガハラケン 学校法人 永原学園									
フリガナ大学の名称	ニキョウシユウガクイフクイタイ 西九州大学大学院（Graduate School of Nishikyushu University）									
大学本部の位置	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9									
大学の目的	大学院は、西九州大学の建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会に貢献し、文化の進展と健康・福祉の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	スポーツ科学専攻（修士課程）は、スポーツに対する科学的な知識と実践力を持ち、すべての人に対して生涯にわたってスポーツを活用した豊かな生活を支援できる高度専門職業人を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	生活支援科学研究科 [Graduate school of Human Care Sciences] スポーツ科学専攻(修士課程) [Master's Course in Sports Science]	2	2	-	4	修士 (スポーツ科学) Master of Sports	令和6年4月 第1年次	神埼キャンパス 佐賀県神埼市神埼町 尾崎4490番地9		
	計	2	2	-	4					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	生活支援科学研究科臨床心理学専攻（博士課程）（2）（令和5年3月課程変更認可申請） 生活支援科学研究科保健医療学専攻（博士課程）（2）（令和5年3月認可申請） 令和6年4月名称変更予定 生活支援科学研究科臨床心理学専攻（修士課程） →同研究科臨床心理学専攻（博士前期課程）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	生活支援科学研究科 スポーツ科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
新設区分	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	生活支援科学研究科	スポーツ科学専攻 (修士課程)	5人 (5)	4人 (4)	2人 (2)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	8人 (8)	令和5年3月認可申請
	生活支援科学研究科	保健医療学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	6 (6)	令和5年3月認可申請
	生活支援科学研究科	臨床心理学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	令和5年3月課程変更の認可申請
	計	20 (20)	14 (14)	6 (6)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	-	-	

既 分	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	15 (15)	修士課程を博士前期課程に 名称変更届出(予定)	
	生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻 (修士課程)	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	6 (6)		
	生活支援科学研究科 子ども学専攻 (修士課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)		
	生活支援科学研究科 看護学専攻 (修士課程)	6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)		令和4年4月設置
	生活支援科学研究科 健康福祉学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)		令和5年4月名称変更
	生活支援科学研究科 健康福祉学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)		令和5年4月名称変更
	生活支援科学研究科 栄養学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)		令和4年4月設置
	生活支援科学研究科 栄養学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)		
	計	62 (62)	30 (30)	11 (11)	0 (0)	104 (104)	0 (0)	- (-)		
	合計	82 (82)	44 (44)	17 (17)	0 (0)	144 (144)	0 (0)	- (-)		
教員 以外 の 職員 の 概要	職 種	専 任		兼 任		計			大学全体	
	事 務 職 員	50 (50)		0 (0)		50 (50)				
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員	2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計	52 (52)		0 (0)		52 (52)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			西九州大学短期大学 部(必要面積3,800 ㎡)と共用 借用面積3971.07㎡ 借用期間:30年	
	校 舎 敷 地	39,878 ㎡	14,833 ㎡	0 ㎡		54,711 ㎡				
	運 動 場 用 地	18,813 ㎡	7,630 ㎡	0 ㎡		26,443 ㎡				
	小 計	58,691 ㎡	22,463 ㎡	0 ㎡		81,154 ㎡				
	そ の 他	65,243 ㎡	3,869 ㎡	0 ㎡		69,112 ㎡				
合 計	123,934 ㎡	26,332 ㎡	0 ㎡		150,266 ㎡					
校 舎	専 用	29,227 ㎡ (29,227 ㎡)	19,392 ㎡ (19,392 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)		48,619 ㎡ (48,619 ㎡)			西九州大学短期大学 部(必要面積3,900 ㎡)と共用	
	共 用									
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			大学全体	
	50 室	69 室	44 室	4 室 (補助職員 3人)		1 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	生活支援科学研究科 スポーツ科学専攻(修士課程)			11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	生活支援科学研究科 スポーツ科学専攻	28,672 [910] (28,651 [906])	34 [2] (34 [2])	1 [0] (1 [0])	1,178 (1,178)	747 (747)	0 (0)			
	計	28,672 [910] (28,651 [906])	34 [2] (34 [2])	1 [0] (1 [0])	1,178 (1,178)	747 (747)	0 (0)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				大学全体		
	1,960 ㎡	283 席		204,000 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							大学全体	
	3,267 ㎡	トレーニングセンター 242㎡	テニスコート 2面	多目的コート 1面	弓道場 89㎡					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当り研究費等		80千円	80千円						
	共同研究費等		0千円	0千円						
	図書購入費	50千円	50千円	50千円						
	設備購入費	0千円	500千円	500千円						
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	810千円	610千円	一千円	一千円	一千円	一千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入等								

既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	健康栄養学部 健康栄養学科	4	120	—	480	学士 (健康栄養学)	0.77 0.77	平成 26年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市 神埼町尾崎 4490番地9		
	健康福祉学部 社会福祉学科	4	80	3年次 10	340	学士 (社会福祉学)	0.67 0.50	昭和 49年度			
	スポーツ健康福祉学科	4	50	—	200	学士 (スポーツ健康福祉学)	0.95	平成 26年度			
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	0.77 0.77 0.98	平成 19年度			
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.56	平成 19年度			
	子ども学部 子ども学科	4	80	3年次 10	340	学士 (子ども学)	1.09 1.06	平成 21年度		佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	心理カウンセリング学科	4	40	—	160	学士 (臨床心理学)	1.16	平成 26年度			
	看護学部 看護学科	4	90	—	360	学士 (看護学)	1.06 1.06	平成 30年度		小城キャンパス 佐賀県小城市小城 町176番地27	
	大学院 生活支援科学研究科 栄養学専攻 博士前期課程	2	2	—	4	修士 (栄養学)	1.07 0.25	平成 26年度		神埼キャンパス 佐賀県神埼市神埼 町尾崎4490番地9	
	栄養学専攻 博士後期課程	3	2	—	4	博士 (栄養学)	1.00	令和 4年度			
	地域生活支援学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士 (生活支援学)	1.20	平成 27年度			
	地域生活支援学専攻 博士後期課程	3	3	—	9	博士 (生活支援学)	1.11	平成 27年度			
	リハビリテーション学専攻	2	3	—	6	修士 (リハビリテーション)	1.33	平成 26年度			
	臨床心理学専攻	2	5	—	10	修士 (臨床心理学)	1.60	平成 26年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号		
	子ども学専攻	2	3	—	6	修士 (子ども学)	0.66	平成 27年度			
	看護学専攻	2	5	—	10	修士 (看護学)	0.60	令和 4年度	小城キャンパス 佐賀県小城市小城 町176番地27		
	既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学短期大学部								所在地
		学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		地域生活支援学科	2	100	—	200	短期大学士 (地域生活支援学)	0.79	平成29 年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	幼児保育学科	2	90	—	180	短期大学士 (保育学)	0.82	昭和 40年度			
附属施設の概要	該当なし										

教育課程等の概要

(生活支援科学研究科 スポーツ科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	生活支援科学特論	1前	2			○			1						兼6	オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0				1	0	0	0	0		兼6	—
基礎分野	地域スポーツ支援学特論	1前		2		○			1							
	学校保健体育支援学特論 I	1前		2		○			1							
	健康運動科学特論	1後		2		○			1							
	健康スポーツ医学特論	1後		2		○			1							
	スポーツ心理学特論	1後		2		○					1					
	スポーツ生理学特論	1前		2		○					1					
	スポーツ栄養学特論	1前		2		○									兼1	
小計(7科目)	—	0	14	0				4	0	2	0	0		兼1	—	
展開分野	学校保健体育支援学特論 II	1後		2		○				1						
	スポーツバイオメカニクス学特論	1前		2		○				1						
	身体教育特論	1後		2		○				1						
	運動処方特論	1後		2		○			1	1						オムニバス
	幼児運動・スポーツ支援学特論	1前		2		○									兼1	
	地域スポーツ支援実践研究	1~2		6				○	2	1	2					共同
	学校保健体育支援実践研究	1~2		6				○	1	2						共同
小計(7科目)	—	0	22	0				4	4	2	0	0		兼1		
研究指導	特別研究	1~2通	8				○		5	3	1					
	小計(1科目)	—	8	0	0				5	3	1					
合計(16科目)		—	10	36					5	4	2	0	0		兼8	
学位又は称号		修士(スポーツ科学)			学位又は当科の分野			体育関係								
修了要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目10単位、選択科目より20単位以上、合計30単位以上修得すること。 なお、専修免許取得希望者は、学校保健体育支援学特論 I 及び II、学校保健体育支援実践研究の3科目を修得すること。								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(生活支援科学研究科 スポーツ科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	生活支援科学特論	<p>（概要）</p> <p>人びとの生活に対する支援を適切に行うには、生活の機能や領域、それらを研究、支援の対象とする諸科学のありようについて関心を持ち、学修する姿勢が必要とされる。本講義は、研究科における研究教育の基本、前提を学修し、栄養学、臨床心理学、リハビリテーション学、子ども学、健康福祉学、看護学といった各専攻領域の議論に入る準備を行うことを目的とする。地域における人びとの生活の機能や領域、生活支援についての理論や方策、各専攻領域における支援内容について理解を深め、生活支援科学がめざすものについて説明できるようになること、生活支援を学ぶために不可欠な研究倫理を理解することを狙いとする。各専攻の教員からの講義の後に、講義担当者全員を交え、受講院生からレポートの発表と、地域における生活支援にむけた総合的視点から議論を行い、生活支援の方策について考察を深め、学修成果を確かなものとする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回：単独講義14回、担当者全員での講義1回）</p> <p>（担当者全員での講義1回）</p> <p>地域における生活支援科学の視点と概要について講じる。人々が地域社会のなかで、より健康的で自立した生活を確保し、維持することをめざす支援のあり方について、多角的な視野から考察することを促す。</p> <p>（14 横尾美智代/単独講義2回、担当者全員での講義1回）</p> <p>研究倫理についての理解を深めるための講義を行うとともに、具体的な研究計画に即して、倫理的な配慮の必要性を考察する。</p> <p>（12 井本浩之/単独講義2回、担当者全員での講義1回）</p> <p>生活支援を展開する地域社会と大学との関係性について講じる。大学の役割が「狭義の人材育成にとどまるのではなく、地域社会への実効性のあるかかわりにあること」を高等教育改革行政の観点からとらえるとともに、具体的な事業展開例を紹介していく。グループワークでの意見交換も行う。</p> <p>（13 安田みどり/単独講義2回、担当者全員での講義1回）</p> <p>生活支援における食・栄養の位置と役割、人間栄養学と生活の視点からみた食・栄養の重要性を講じる。食・栄養が健康支援と密接にかかわっていること、生活において食が重要な要素を占めていることへの理解を深める。</p>	オムニバス方式 共同（一部）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	生活支援科学特論	<p>(15 田中 麻里/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 生活支援における子どものニーズと発達、子育て家庭における家族関係と子どもの育ちのあり方を講じる。現代の子どもを取り巻く環境が、少子化、家族の変容、情報化やデジタル化の進展により急速に変化している現実を踏まえ、子ども学の観点から子どもと家族支援のあり方を考える。</p> <p>(16 安藤 満代/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 生活支援におけるメンタルヘルスの重要性を、健康心理学や医療心理学の視点から紹介し、ライフサイクルから見たメンタルヘルスの課題と援助について講じる。その上で臨床心理学の視点から、メンタルヘルスについて具体的事例を交えて理解を促す。</p> <p>(5 大川 裕行/単独講義2回、担当者全員での講義1回) リハビリテーションの立場から見た人の健康、生活とその障害、生活支援を目指したリハビリテーションについて講じる。リハビリテーションが目指すものは、共生社会の実現であり、そのためのリハビリテーションの支援のあり方、特にパラスポーツの効果について考察する。</p> <p>(17 黒田 研二/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 地域包括ケアシステムの構築の条件、地域包括ケアにおける多職種連携について講じる。とくに看護学の立場から、地域における多機関、多職種連携のあり方や、連携を通じて目指すものが地域共生社会の実現であることを考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	地域スポーツ支援学特論	地域（社会）におけるスポーツの意義と役割、生涯スポーツの重要性について理解を深める。そのうえで、スポーツの支援の現状や課題について、国および地域行政のスポーツ政策や具体的取り組み、関係機関（日本スポーツ協会、レクリエーション協会、日本パラスポーツ協会等）の取り組み、対象別（子どもから高齢者、女性、障がい者等）のスポーツ活動の実態などから整理し、地域におけるスポーツの支援のあり方について教授する。	
	学校保健体育支援学特論 I	青少年の現代的健康課題解決に向けて主に中学校保健体育科の「保健分野」及び、高等学校の「科目保健」における保健学習の重要性を理解し、生徒が生涯を通じて健康で安全な生活習慣獲得のために必要な資質・能力を身につけられる教材研究の進め方や授業づくり、そして授業方法と授業評価、授業改善の方法について学ぶ。特に保健学習が効果的に計画・実施されるよう講義は演習形式で行い、学校現場で開催される公開授業研究会や授業カンファレンスへの参加を含め、教員としての高度な授業実践力を養うことをねらいとする。	
	健康運動科学特論	健康寿命の延伸とともに生きがいを持った健やかな生活を送る上で、日ごろの健康管理は重要となる。授業では、身体運動の視点から健康について理解を深めるとともに運動やスポーツを通じた実践的生活支援のあり方について考察する。そのために、身体運動のメカニズムを理解し、生活習慣病との関係を解説する。さらに、健康産業施設における実務を理解することで、地域における健康づくりの取り組みを学ぶ。	
	健康スポーツ医学特論	健康・体力の維持増進や疾病の予防・治療などの目的等で身体活動を必要とする対象者は、幅広い年齢層に及び、かつ健康者から有疾患者・障がい者・競技者まで、その身体特性は多様である。しかし、身体活動の実施方法や実施環境、栄養摂取状況・睡眠・服薬状況等によっては、健康障害を引き起こすリスクもある。支援にあたり医療従事者との連携が必要となる場合もある。連携や支援を行うにあたり、運動刺激が生体に及ぼす影響を定量的・定性的に正しく理解し、的確に説明できることが求められる。運動刺激による急性・慢性の各種影響について、①効果と弊害の両視点から、②対象者の特性によってどのような違いがあるか、先端的知見を整理するとともに、③支援する際に注意すべき点は何か、医科学的に掘り下げながら理解を深める。	
	スポーツ心理学特論	スポーツ活動や運動に取り組む多くの人の中でスポーツ心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義では、運動やスポーツの実践過程を心理学的に理解しながら、運動が上手くなり、楽しく実施できる環境づくりや、そこでの行動変容について、さらには運動を継続することの意味等についてもディスカッションを踏まえながら検討していく。また、競技力の向上やスポーツ指導のために応用する方法について解説する。	
	スポーツ生理学特論	運動に対する身体の応答や適応のしくみを理解するためには、生理学を取り巻く関連領域の専門的知識を身につけておく必要がある。生理学の理解に必要な基礎的知識のもと、フィットネスやパフォーマンス向上を支えるスポーツ生理学の専門的知識について、最新の研究成果を交えながら解説する。	
	スポーツ栄養学特論	スポーツをする上で、身体を動かすためのエネルギーの確保、身体づくりのためのたんぱく質の確保、コンディショニングのためのビタミン・ミネラルの確保等、食事は重要な要素である。しかし、アスリートとしてどのように実践していくか、指導者としてどのように教育をすればいいのか、現場では困る場面が散見される。そこで、この講座では、スポーツ栄養の各論に加え、現場での実例を通じて、アスリートの食事に関する課題解決型のアプローチをしていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校保健体育支援学特論Ⅱ	この授業では中学生や高校生の運動課題解決に向けて主に中学校保健体育科の「体育分野」及び、高等学校の「科目体育」における体育学習の重要性を理解し、生徒が生涯を通じて運動・スポーツに親しむために必要な資質・能力を身につけられる教材研究の進め方や授業づくり、そして授業方法と授業評価、授業改善の方法について学ぶ。特に体育学習が効果的に計画・実施されるよう講義は演習形式で行い、学校現場で開催される公開授業研究会や授業カンファレンスへの参加を含め、より教員としての授業実践力を養うことをねらいとする。	
	スポーツバイオメカニクス学特論	バイオメカニクスは生体の力学現象を扱う研究領域である。本授業では、これをスポーツなどの身体運動に特化したスポーツバイオメカニクスについて扱う。講義形式でスポーツ技術など優れた身体運動の仕組みについて、研究報告や具体的な実践例を交え解説する。また、技の上達や競技力向上のための身体運動測定法や分析・評価方法を紹介し、その実践について演習形式で討論することで、スポーツ支援活動に応用できる能力を養う。	
	身体教育特論	身体に関する問題は単純な健康の問題にとどまらず、社会や文化の問題としても捉えていく必要がある。特に情報化、複雑化する社会において学校期における身体教育の理解には、より論理的に高度な知見が求められよう。本講義では、身体教育に関して、目的理解としての原理的理論、対象理解としての社会学的理論・方法理解としての教育学的理論等について学ぶ。また講義で取り扱った中から、知識を深めたいと考えた内容について専門分野の論文収集を行い、整理し、発表、討議する。	
	運動処方特論	<p>(概要)</p> <p>身体活動や運動のリスク、有益性に関する最新の情報を提供する。そのために、まず身体活動と体力に関する重要な用語を定義する。運動不足による疾患の予防や治療における身体活動の役割の背景となる身体活動に関する勧告の基礎となる公衆衛生学的な展望について理解を深める。運動に関連した合併症の一次予防ならびに二次予防のために発生頻度や重症度軽減のための勧告を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 大川 裕行／単独講義7回、共同講義1回)</p> <p>運動処方において重要な基礎的な知識を網羅的に学習し、身体活動や運動の有益性やリスクについての理解を深めていく。運動負荷試験や健康関連体力テストをキーワードに測定技法から結果の解釈を修学することを目的とした講義を展開する予定である。</p> <p>(9 中村 雅俊／単独講義7回、共同講義1回)</p> <p>運動処方におけるトレーニングの原則や高齢者・心疾患者など、様々な層への運動商法に対する基礎的な知識と運動処方における重要な基礎的な知識の修学を目指す。またリスク管理の一つである救急管理についても学習をする予定である。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	幼児運動・スポーツ支援学特論	本講義では、幼児期における運動・スポーツを視点に、各種運動の特性を理解し、運動の目的や幼児期の発達段階に沿った運動・スポーツの環境づくりや支援法について検討し、幼児体育、幼児スポーツのあり方を探る。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 分 野	地域スポーツ支援実践研究	<p>(概要)</p> <p>地域におけるスポーツ支援の実態について、支援する側の立場から実際に体験・思考することでその現状と課題を整理し、今後のスポーツ支援のあり方について考察する。具体的には、受講者の選択する場（行政のスポーツ担当部署や各種スポーツ関係機関・団体、健康医療施設・研究所、総合型地域スポーツクラブ、フィットネスクラブ等）において、実践研究の目的と計画を明確にしたうえで25日（1日を8時間とした場合）程度のフィールドワークを行い、考察内容とまとめ報告（発表）する。なお、受講生が実践研究を行うスポーツ支援の場と研究分野が適合する教員が指導を担当する。担当する教員の担当分野は次の通りとする。</p> <p>(2 近藤 芳昭) 地域における運動・スポーツ支援 フィットネスクラブや健康増進関連機関等を中心に担当</p> <p>(4 山田 力也) 地域における運動・スポーツ支援 スポーツ行政、スポーツ団体・関連機関等を中心に担当</p> <p>(7 市川 浩) アスリートを対象とした支援 競技スポーツ団体・関係機関等を中心に担当</p> <p>(10 甲木 秀典) アスリート、パラスポーツアスリートを対象とした支援 競技スポーツ団体・関係機関等を中心に担当</p> <p>(11 山口 裕嗣) 地域における運動・スポーツ支援 高齢者福祉施設、健康増進関連機関等を中心に担当</p>	共同
	学校保健体育支援実践研究	<p>(概要)</p> <p>この授業では、中学校「保健体育（保健分野・体育分野）」及び、高等学校の「保健」・「保健体育」の授業支援や、授業実践を実際に学校現場で行いながら、自らの実践的指導力に関する課題を見出し、修士論文に関連した調査研究や介入研究等の活動を通して多面的・多角的に考察し、保健体育の授業実践に関わる課題解決に関する知識やスキルを身に付けることをねらいとする。尚、受講生が実践研究を行う教科指導の場と研究分野が適合する教員が指導を担当する。</p> <p>(1 栗原 淳) 中学校、高等学校の保健体育、特に保健学習における授業支援と授業研究を担当</p> <p>(6 中島 慎一) 中学校、高等学校の保健体育、特に体育実技における授業支援と授業研究を担当</p> <p>(8 松本 大輔) 中学校、高等学校の保健体育における授業支援と授業研究を担当</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導	特別研究	<p>(概要)</p> <p>スポーツ科学にかかわる各自の興味に基づく研究課題を設定し、取り組む課程で、研究の基礎を身につける。2年間を通して一つの研究テーマに取り組むことで、既存の知識や情報の限界を知り、科学的な思考に基づくスポーツを活用した豊かな生活支援の研究・実践力を磨くことを目的とする。</p> <p>(1 栗原 淳)</p> <p>健康・スポーツに関連する修士論文の作成に必要な文献研究を行い、研究を進めるプロセス（文献検索・文献抄読、研究テーマの設定、研究目的・方法の検討、研究仮説の設定とその検証方法、フィールド調査やアンケート調査及び実験等データの収集方法、統計的データ解析と分析結果の解釈及び考察等）について学び研究計画を立案する。その計画に沿って研究仮説の検証のためのエビデンスを示しながら論文を進め論文を完成させる。</p> <p>(2 近藤 芳昭)</p> <p>健やかで生きがいを持った生活を送るうえで身体運動は重要で、生活習慣として位置づけ継続できる行動変容の理解と実践が求められる。これらを意識して身体運動を通しての健康づくりに関する先行研究から研究課題を見出し、その探求心を深め、修士論文を作成する。</p> <p>(3 庄野 菜穂子)</p> <p>テーマ：「本学女子学生における心身の健康面から見た課題抽出と健康増進のための仕組みづくり」</p> <p>近年若年者における生活習慣病やメンタル不調の増加に伴い、健康な社会人としてスタートできない場合や、早期離職が問題となっている。一般的に大学入学後は食事や睡眠のリズムが崩れやすいことに加え、大学における体育の授業削減、ここ数年コロナ禍の影響で遠隔授業や外出自粛による身体活動量の低下が示唆される。しかし大学生における健康診断項目は極めて限定的であるため、若年者の健康実態を把握できていない可能性が高い。授業での体力測定結果も十分活用されていない現状が推測される。特に女子学生は月経に関係する心身の不調や貧血を有するものが多いと考えられる。そこで、この特別研究では西九州大学生全体を対象とした健康管理システムシステムの構築を長期的な目標とし、まず女子学生を対象として研究を行う予定である。上記のテーマに関連づけて、先行研究を整理し、独自の研究テーマを設定し修士論文の計画から完成まで取り組む。</p> <p>(4 山田力也)</p> <p>社会における体育・スポーツにかかわる諸事象に対する各自の問題意識に基づき、スポーツ社会学の視点中心に学際的な観点も見据えながら研究指導を行う。内容としては、研究テーマの設定、先行研究のレビュー、研究の目的・仮説・方法を設定、これらに基づく調査の実施と結果の分析を踏まえ深く考察できる能力を養うよう修士論文作成に向けての指導を行う。</p> <p>(5 大川 裕行)</p> <p>バラスポーツまたは身体活動等をキーワードとした分野において、修士論文を完成させるための基礎的能力を養うことを目的とする。関連する分野において研究テーマを模索しながら、研究目的を明確にして研究計画を作成する。同時に先行研究の精査・抄読、予備実験の実施を経て研究に着手する。データ収集と分析、ならびに結果の検証、論文構成など、修士論文を完成させるまでを指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導	特別研究	<p>(7 市川浩) スポーツ・健康・福祉に関する諸現象への問題意識に基づき、自然科学に基づいた研究指導を行う。研究一般に関する概説を行い、情報収集/整理・環境の整備・調査や実験方法・データ処理や分析方法について演習することで、研究実践の基礎力を養う。また、研究計画立案から予備調査・実験を試行することで、修士論文作成に向けた準備に取り組む。 研究計画に沿った調査・実験、データ処理、分析作業を重ね、論理的な考察を展開することで学術的な知見の獲得を目指す。得られた知見をもとに修士論文を完成させ、研究成果に基づいた実践的な提言に到達することをねらう。</p> <p>(8 松本大輔) 身体教育にかかわる諸問題に対して体育科教育、遊び論、動機づけ論、発育・発達論等の内容を研究テーマとして、現代社会における身体教育の意義や意味等の課題について研究指導を行い修士論文作成を目指す。研究においては研究成果や研究者の力量が将来的に教育研究及び・教育実践に還元され得る方向性を重視する。</p> <p>(9 中村 雅俊) 学会発表・修士論文作成の基礎的能力を養うことを目的とする。現場で感じている疑問について、国内外で実施されたスポーツサイエンスに関する論文の収集・抄読を行う。その後、修士論文における研究テーマの検討、研究計画の立案・プレゼンテーション、予備実験の実施による測定・解析技術の習得を行う。その後、研究データの収集・解析を行い、適切な統計処理の後、その結果についての討議を行う。また、研究で得られた知見についてのディスカッション、論文執筆を行い、最終的には修士論文を完成させる。</p> <p>(11 山口裕嗣) 修士論文作成の基礎的能力を養うことを目的として、国内外で実施されたスポーツ科学に関する論文の収集・抄読を行う。修士論文における研究テーマの検討、研究計画の立案、予備・主研究の実施とその結果についての討議、研究で得られた知見についての考察、総括および要約の討議を行い、修士論文を完成させる。</p>	

学校法人永原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
西九州大学				西九州大学				
健康栄養学部				健康栄養学部				
健康栄養学科	120	-	480	健康栄養学科	120	-	480	
				【30】			【120】	デジタル社会共創学環に係る内数
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	10	340	社会福祉学科	80	10	340	
		3年次		【30】			【120】	デジタル社会共創学環に係る内数
スポーツ健康福祉学科	50	-	200	スポーツ健康福祉学科	50	-	200	
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
子ども学部				子ども学部				
子ども学科	80	10	340	子ども学科	80	10	340	
心理カウンセリング学科	40	-	160	心理カウンセリング学科	40	-	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
				<u>デジタル社会共創学環</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学部等連係課程実施基本組織の設置(届出)
(計)	540	20	2,200	(計)	540	20	2,200	
西九州大学大学院				西九州大学大学院				
生活支援科学研究科				生活支援科学研究科				
栄養学専攻(M)	2	-	4	栄養学専攻(M)	2	-	4	
栄養学専攻(D)	2	-	6	栄養学専攻(D)	2	-	6	
臨床心理学専攻(M)	5	-	10	臨床心理学専攻(M)	5	-	10	名称の変更(届出)
				<u>臨床心理学専攻(D)</u>	<u>2</u>	-	<u>6</u>	課程の変更(認可申請)
リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	
子ども学専攻(M)	3	-	6	子ども学専攻(M)	3	-	6	
健康福祉学専攻(M)	5	-	10	健康福祉学専攻(M)	5	-	10	
健康福祉学専攻(D)	3	-	9	健康福祉学専攻(D)	3	-	9	
看護学専攻(M)	5	-	10	看護学専攻(M)	5	-	10	
				<u>スポーツ科学専攻(M)</u>	<u>2</u>	-	<u>4</u>	専攻の設置(認可申請)
				<u>保健医療学専攻(D)</u>	<u>2</u>	-	<u>6</u>	専攻の設置(認可申請)
(計)	28	-	61	(計)	<u>34</u>	-	<u>77</u>	
西九州大学短期大学部				西九州大学短期大学部				
地域生活支援学科	100	-	200	地域生活支援学科	100	-	200	
幼児保育学科	90	-	180	幼児保育学科	90	-	180	
(計)	190	-	380	(計)	190	-	380	